

単元構想のリフレクション（研究仮説と手だての有効性の検証）	
単元を通じた構想の振り返り（仮説の検証）	本単元では、具体的なビジネスの場面を想定したロールプレイングや具体的な課題を設定した状況対応演習を行うことにより、台本どおりではなく、場面に応じたマナーを身に付けることができるようになって考えた。この実践では、タブレット端末を活用し、ペアやグループでの話し合いを通して、自己や他者のよかった点や改善点を見つけることができた。ペアワークやグループワークを中心とした授業は、大多数の生徒がふだんの授業と比べ、主体的に深く学ぶことができた。事後アンケートで回答している。また、繰り返し実践することにより、臨機応変に対応することの難しさを知ると同時に、練習を重ねることで実践力がついてくると実感した生徒も多く見られた。最終的には、話し方と人間関係の重要性や他者と協働して主体的に課題を解決していくことの重要性に気付くことができた。
主体的な学びを実現する手だての有効性の検証	タブレット端末に録画した動画を再生し、他者からアドバイスをもらいながら各自の課題を見いだすことができた。アンケート結果からも、動画を繰り返し再生し確認することにより改善点を見つけ、直すことができた。感想を述べている生徒が多かった。また、状況対応演習では、各自のペースで行うことができ、学びやすかったという意見が多かった。
対話的な学びを実現する手だての有効性の検証	生徒がペアやグループで話し合う際に、タブレット端末は非常に有効なツールであることが実証できた。生徒同士でロールプレイングのアドバイスを求める際にも、繰り返して動画を再生することができ、他のグループとの比較も簡単にできることから、意見も活発に出ていた。また、状況対応演習もタブレットをフラッシュカードのように使用することで、場面に応じたマナーについて協働しながら、適切な対応方法を考えることができていた。
深い学びを実現する手だての有効性の検証	アンケート結果から、今後も学習の参考のために一般のYouTube動画を活用したいと回答した生徒が92.5%であった。理由としては、学校での勉強とは違った視点で深く学べることや自宅でも簡単に復習できることなどが挙げられていた。実社会でのビジネスマナーの重要性を理解し、学習内容に興味・関心をもたせることに対して、一定の効果があったと考えている。このことが習慣化できれば、より深い学びに結び付けることが可能になると確信を得た。

抽出生徒の変容		
生徒	実践前の様子	単元終了時の様子
A	事前アンケートで、場面や状況に応じて臨機応変に対応することは簡単であると回答した唯一の生徒である。自信をもつことはよいが、謙虚にスキル向上に取り組むことを期待する。	「実際やってみると、応用的な状況対応ではうまく言葉が出なかった」と感想を述べており、ビジネスの場面での対応の難しさを学んだ。周囲と協働しながら意欲的に取り組んでいた。
B	教科書の説明が長くなる場面では、集中力が途切れてしまうことがしばしば見られる。授業に興味・関心をもって取り組んでほしい。	とても楽しそうにグループワークに取り組み、積極的に意見を発表していた。事後アンケートでは、授業以外でも学習の参考に一般の動画を活用したいと回答していた。
C	日頃から一生懸命授業に取り組み、成績も優秀な生徒であるが、場面や状況に応じて臨機応変に対応することには自信がなく不安を感じていた。	全体発表時に、一番対応がよかった生徒に選ばれたことが自信につながった。また、声のトーンや動作など細部まで意識することができるようになった。周囲への声掛けも適切に行っていた。

実践を通しての課題
台本どおりではなく、場面に応じたビジネスマナーを実践できる能力を身に付けさせ、ビジネスの諸活動を円滑に行うことができる生徒を育成するには、継続的な実践が重要性であると再認識した。ごく一部ではあるが、対応の難しさを体感したことで、逆に不安が大きくなってしまった生徒もいたため、フォローしていきたい。また、一般動画の活用については、適切な場面で適切な動画を使用するための研究を日頃から行うことも課題であると感じた。